



■発行：石狩振興局森林室普及課

●住所：〒061-0216
石狩郡当別町栄町 192-7

●電話：0133-22-2161

●FAX：0133-22-0551

●ホームページ：<https://www.ishikari.pref.hokkaido.lg.jp/sr/srs/index.html>



哺乳類による森林被害の見分け方

寒さが厳しい北海道の冬ですが、雪解け後には、哺乳類による森林被害の痕跡が見えてきます。樹木を加害する北海道の代表的な哺乳類には、エゾヤチネズミ、エゾユキウサギ、エゾシカの3つが挙げられます。

■フンによる特定：ある程度新しいものであれば、加害種を特定することが可能。



エゾヤチネズミのフンは、米粒のような形状で、樹皮を食害された樹木の根元にしばしば見られます。フンの大きさは、7mm 前後です。



エゾユキウサギのフンは、球を押しつぶしたような円い形をしています。フンの大きさは、10mm 前後です。



エゾシカのフンは、たいていエゾユキウサギよりも黒い色をしており、俵形のものが多いですが、多数のフン粒が固まった柔らかいフンもあります。フンの大きさは、10mm 前後です。



■枝葉の被害による特定：どの種の被害も痕跡形態が類似。被害から時間が経過した場合は、正確な判定が困難。



エゾヤチネズミによる食痕は、切歯痕が細かいことで他の動物と区別できますが、樹皮の食害が激しくなると、枝葉を切り落としてしまうことがあります。

枝葉の食害は、ふつつ晩秋季から冬季に発生します。



エゾユキウサギによる食痕は、梢端部などの細い部分では、斜めに鋭く切り落とされた切断面となることが多く、太い枝などでは鋭く削られていることが多いです。

枝葉の食害は、ふつつ晩秋季から冬季に発生します。



エゾシカは、枝や細い幹を口で引きちぎって食べるため、切断面はなめらかではなく、木の繊維が残ることもあります。また、枝や幹をくわえて折り、枝先を食べることもあります。食害を繰り返されると、盆栽状になります。

枝葉の食害は、1年を通じて発生します。



■ 樹皮の被害による特定：食害は、主に積雪期に発生。外樹皮は食べず、切歯で樹皮を削いで、内樹皮を食べる。



エゾヤチネズミの切歯痕は、幅が2 mm 以下で、幹には多方向から削られた痕跡が残ります。被害は通常根元付近で見られますが、枝の付け根などにも見られることがあります。かじり落とされた外樹皮が、フンとともに被害木の周りに落ちています。



エゾユキウサギの切歯痕は、幅が2.5～3.5 mm で、幹には横方向に鋭く彫刻刀で削ったような痕跡が残ります。



エゾシカは上顎に切歯がないため、下顎の切歯で削り取るようにして樹皮を食べます。アオダモやミズキなどの樹種には、幅5 mm 前後の食痕が見られます。また、ニレ属などの樹種は、樹皮を口ではさんで引き剥がすため、樹皮は繊維状に引き裂かれており、剥皮された幹には無数の切歯痕が見られます。

角の先端部を擦りつけた場合、幹に筋状の深い傷がつきます。一方、角の分岐部や側面による場合は、帯状に擦ったような傷跡残り、トドマツの小径木などでよく見られます。

角擦り（角研ぎ）は、8月頃から発生し、10月後半にピークを迎え、翌年の4月頃まで続きます。



このように、被害を受けた部分には、それぞれの食べ方や切歯の形状により、特徴的な痕跡が残っています。また、周辺には加害種のフンなどが残っていることもあります。

これらを観察することで、加害種を特定することができますので、見分ける際の参考としてください。



石狩振興局森林室普及課職員の紹介

石狩振興局森林室普及課には、5名の林業普及指導員を配置しており、森林所有者や一般道民、青少年からの多様なニーズに対応した地域の森林づくりに必要な技術や知識の普及指導を行っています。

皆さんからの森林や林業に関するご相談やご質問に可能な限りお答えしますので、お気軽にご相談ください。

- 前列左から 長山普及推進係長
- 藏中普及課長
- 谷口主査（計画指導）
- 後列左から 石田専門普及指導員
- 國井専門主任

